

コンプライアンス系研修

研修の目的

学校におけるハラスメントに関する正しい知識を認識し、一人ひとりが当事者意識を持つことで、学内外での加害・被害を防ぎます。学校現場では様々なハラスメント被害が潜んでいます。それらを踏まえ、学校で注意すべきアカハラ・パワハラ・セクハラを中心に、正しい知識とその対策を、実際に起きた学校の事例をもとにしながら学びます。

研修の構成（例）

所要時間

60～120分

1 ハラスメントとは | ハラスメントについて基本的な知識を身につける

- ・ ハラスメントの定義の解説
- ・ ハラスメントのレベル…法律問題からマネジメント上の問題まで、レベルごとの原因とリスクについて
- ・ ハラスメントの種類と留意点…アカハラ / パワハラ / セクハラ / アルハラ 等、多岐にわたるハラスメントを徹底解説

2 学校の各現場の留意点 | 学校特有のハラスメントと、その予防策を知る

- ・ ハラスメントの分類からみる学校現場での留意点と予防策
- ・ 通常授業 / 実習 / サークル、部活動 / ゼミ / 各事務室 / バイト先において起きりうるハラスメント

3 学校現場での事例から学ぶケーススタディ【ワーク】 |

何がハラスメントに当たるかを自ら考え認識することで、未然に防止する能力を身につける

4 ハラスメントの初期対応 | 万が一の事態に備え、初期対応を理解する

- ・ 迅速な対応の重要性…学内規定・相談体制を知る
- ・ 被害者に使ってはいけない言葉…セカンドハラスメントの発生を防ぐ

5 ハラスメント対応Q & A | ハラスメント対応の良し悪しを実例で理解し、対応策を身につける



研修の目的

学校現場におけるサービスと個人情報は不可分の関係にあり、学生サービス向上の為に、個人情報を有効に活用するという観点が必要です。本研修では、個人情報保護法の理解はもちろん、「ゼミ」「履修登録」「試験」等、学校特有のシーンごとにその対策を学び、個人情報を有効に活用するために必要かつ適切な取扱い方を修得します。

研修の構成（例）

所要時間

60～120分

1 個人情報に関する意識度チェック

- ・ 他人に知られたくない情報
- ・ 取扱い事業者に取り組んでほしい個人情報保護対策
- ・ 取扱い事業者から個人情報が漏えいした場合に望む対応

2 教育現場における個人情報とは

- ・ 学校における個人情報保護の重要性
- ・ 個人情報漏えいの現状
- ・ 個人情報漏えい事例
- ・ 個人情報漏えいの法的責任

3 個人情報についての再確認

- ・ 個人情報とは
- ・ 個人情報保護委員会
「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン」の解説

4 漏えい防止対策【ワーク】

- ・ 事例から学ぶ（個人情報漏えいのケーススタディ）
 - － 盗難による個人情報漏えい
 - － 誤操作による個人情報漏えい
 - － 管理ミスによる個人情報漏えい

5 まとめ

- ・ 個人情報保護対策におけるマネジメントサイクル
- ・ 個人情報を有効活用するために



研修の目的

SNSによるトラブルは、本人だけでなくその家族や友人、学校などの所属団体等、多くの人に悪影響を及ぼし、その被害は半永久的に残ります。本研修では、そのようなトラブルを起こさないようにするため、学生・教職員がSNSを適切に取り扱うために必要な知識、教職員が学生を指導・対応する立場として必要な知識の両面を学びます。

研修の構成（例）

所要時間

60～120分

1 SNSとは

- ・ 近年の動向
- ・ SNSの定義
- ・ SNSの種類と特徴
- ・ インターネットの特性とSNSの特性

2 SNSのトラブル事例

- ・ 教職員 / 学生のトラブル事例
- ・ 投稿から炎上までの流れ

3 SNS利用に伴うリスク

- ・ SNSトラブルがもたらす5つの脅威

4 トラブル防止のために

- ・ 個人で出来るトラブル防止策
- ・ 学校として取り組むリスク対策

5 ネットトラブル発生時の対応

- ・ トラブル発生時のNG行動
- ・ トラブル発生時の対応手順

6 対応ケーススタディ【グループワーク】

- ・ あなたならどうする？

7 まとめ

- ・ SNS利用における留意点



研修の目的

大学生になると、高校生の頃よりもアルバイトが増えたり、使えるお金が増えたり、一人暮らしを始めたりと、できることが多くなる反面、社会との繋がりが密になり、ブラックバイトや悪質商法、ストーカーに狙われるなどといったリスクも高くなります。本研修では、学生が巻き込まれるトラブルと、実際にあった例を紹介することで、「他人事」ではなく「自分事」としてリスクを認識し、トラブルを未然に防ぐことを目的とします。

研修の構成 (例)

所要時間 60～90分

1 はじめに

- ・ 高校生と大学生の違い
- ・ 最近の大学生のトラブル事例

2 トラブルの事例と解決法

- ① 飲酒 / 喫煙 / ドラッグによるトラブル
- ② アルバイトによるトラブル
 - ・ 労働基準法とは
 - ・ 【ケーススタディ】
 - － 就業時間の前後に、オーナーの指示で開店準備や片付けをさせられるが、その分の時給が貰えない。
 - － 「辞めるなら代わりのアルバイトを連れてこい。」と言われ、アルバイトを辞められない。
- ③ SNSによるトラブル
 - ・ 炎上とは
 - ・ SNSの正しい使い方とは

- ④ 一人暮らしによるトラブル
 - ・ 近隣との揉め事
 - ・ ストーカーによる被害
 - ・ 生活の乱れ
- ⑤ ハラスメントによるトラブル
 - ・ セクハラ / アカハラ / アルハラ / パワハラ等
- ⑥ 悪質商法によるトラブル
 - ・ 架空請求 / 訪問販売・新聞セールス / マルチ商法等
- ⑦ 個人情報漏洩や著作権の侵害 / 違法コピーによるトラブル
- ⑧ 宗教関連のトラブル
- ⑨ 盗難によるトラブル
- ⑩ 災害によるトラブル

3 おわりに

大学生活を自分らしくいきいきと過ごすために

研修の目的

平成26年以降に改正された「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」では、「関係者の意識向上」のため、「全ての構成員にコンプライアンス教育を実施し、受講者の受講状況及び理解度について把握する」とあり、公的研究費に関わるコンプライアンス研修の実施は全ての研究機関で取り組むべき課題となっております。（研修講師はEY新日本有限責任監査法人が担当いたします）

研修の構成（例）

所要時間 60～90分

1 今、大学に何が起きているか？

大学を取り巻く急激な変化とステークホルダーの期待について、今に何が起きているかを共有します。
その中で未だに続く公的研究費の不正使用事例を紹介します。

2 研究費の不正使用及び教職員の処分事例

文部科学省により、競争的資金の不正な使用に関して返還命令及び応募制限措置を行った事例を確認します。

3 コンプライアンスの本質

大学が社会に対して果たすべきコンプライアンスはどうあるべきか、
大学組織の一員である教員及び職員がどのように対応すべきかについて解説します。

4 タスクフォース中間とりまとめ

改正ガイドラインは、中間とりまとめの基本方針を反映したものとなっているため、中間とりまとめの内容を解説します。

5 公的研究費管理・監査のガイドライン

改正ガイドラインの概要と変更された箇所への理解、対応策について説明します。

6 まとめ

研究者や組織が何に取り組むべきかを考えます。

研修の目的

大学経営を取り巻く環境が厳しくなる中で、「広報」の役割が以前よりも増え、その重要性も増えています。

さらに、価値観の多様化と広報ツールの進化により、業務内容も非常に高度化しています。それは同時に、リスクも増していることとなります。

とりわけ、近年我が国でも注目度が高まっている個人情報保護や著作権、肖像権の問題、SNS炎上等は、喫緊の課題と言えます。

本講座では、それらのリスクを認識して回避しながら、成果を最大限あげる広報活動を展開できるようにすることを目指します。

研修の構成（例）

所要時間

半日～1日

1 大学広報の共通基盤の構築

①最新の広報概論

産業革命をきっかけにアメリカで発祥、発展したと言われるマーケティング理論。現代は、SNS等を駆使した第4世代。この第4世代の広報活動の基本を再確認する。

②大学広報業務とリスク

ニュースリリース、記者会見、広告展開、SNS展開から広報物の作成、ホームカミングデー等のイベント開催、卒業生、在学生、教職員等の情報管理等々を、業務の流れの中でリスクを考察していく。

③グループワーク

『悩んだ、困った』実際にあったリスクについて紹介し合い、ディスカッションを行う。
発表と講師によるコメントによって、より実践的な感覚を身に付けることを目指す。

2 各論の法的リスク対策

①個人情報・プライバシー

大学広報業務における個人情報保護とプライバシーの侵害について学ぶ。

②著作権・肖像権・商標

広報に活用する素材について、その権利関係と活用の留意点について学ぶ。キャラクター使用、画像・動画使用、人物撮影、Webへの投稿、メディア情報の2次使用・・・等々、様々な問題について体系的に学ぶ。

③名誉棄損・信用棄損

昨今のSNSの投稿による名誉棄損・信用棄損について考察する。

④SNS炎上

現代の広報活動の主力になりつつあるSNSだが、使い方を間違えると、広報的に逆効果になってしまうため、著作権、肖像権、個人情報や名誉棄損、信用棄損といったリスクから、法的に問題がなくてもトラブルに至るリスクまで、事例を交えながら学んでいく。

3 実践力養成

①グループワーク

モデルケースを基にして、ケース・スタディを実施。個人の考えをまとめた上で、グループ内で意見交換しディスカッション。さらに、全体へ発表して講評。

②リスクの先へ行く勇氣

予測困難な時代と言われる現代。常に進行形で変化する社会に対して、「変わらない」ことこそ、大学経営上のリスクであり、広報上のリスク。「変わる」勇氣を持つために、法的リスクを乗り越えた先の広報活動について考察する。

③フリートークセッション

研修の総まとめとして、最初に掲げた目標等に対し、できたこと・できなかったこと等を発表する。また、さらなる研鑽のための項目を特定し、次へのステップを考え、発表する。

4 終わりに